

伊方原発の再稼働を許さない！ えひめ県民集会 集会宣言

四国電力は、今月27日に伊方原発3号機の再稼働を行おうとしています。原発は、万一過酷事故を起こせば甚大な被害を、それも取り返しのつかない深刻な被害を人々にもたらします。

2011年3月に発生した東京電力福島第一原発の事故が、その悲惨さを物語っています。原子炉から拡散された放射性物質によって、100万人に1人か2人と言われている子どもたちの小児甲状腺ガンが、なんと200名を超える規模で発生しています。国や東京電力はこうした事態に対して原発事故とは無関係と居直っていますが、心ある専門家は原発事故に由来すると指摘しています。

そして7年半を経た今もなお、復興庁の公式発表でも5万人を上回る避難者が、苦しい避難生活を続けておられます。

福島原発は広大な平地に立地していましたが、細長い佐田岬半島にある伊方原発では、その地形からして住民の避難は困難を極めます。大規模災害や悪天候下で、被ばくをしないで安全に避難することはできません。

仮に事故を起こさず安全に運転し続けたとしても、原発は「死の灰」を生み出します。「死の灰」は人間が近寄れば瞬時に即死する高度に汚染された有害物で、それを無害化する技術はありません。数万年という気の遠くなる期間にわたって管理することが必要不可欠です。

いま日本列島の地震活動は、阪神大震災以降、静穏期から活動期に突入したと言われています。伊方原発は、地震の発生源と恐れられている中央構造線の直近に位置しているばかりでなく、南海トラフによる巨大地震の発生の危険性も増しています。

風力や太陽光など自然エネルギーが増えたことで、四国全体の発電能力は原発の稼働がなくても十分に賄える中で、危険この上ない原発を、それも子々孫々に負の遺産を押し付けてまで再稼働することに何の道理もありません。

四国電力が一刻も早く3号機の再稼働を断念するよう強く求めます。また、愛媛県知事や伊方町長をはじめ関係者は、地域住民の生命と安全を守る立場から、再稼働を阻止するためにその権限を行使することを強く求めます。

2018年10月21日

伊方原発の再稼働を許さない！ えひめ県民集会 参加者一同



伊方原発3号機は昨年12月、広島高裁の運転差し止めを命じる仮処分決定によって、定期検査で停止したまま動かさない状態が続いていました。しかし、9月25日の広島高裁、28日の大分地裁の運転を認める不当な決定を受けて、四国電力は、10月27日に3号機を再稼働させ、11月28日に営業運転を開始しようと目論んでいます。

伊方原発の再稼働を断じて許すことはできません。近年、地震はもとより想定外の自然災害が多発しています。住民の不安や安全を置き去りにして、国や電力会社が経済優先で突き進むことに憤りを覚えます。持って行き場のない使用済み核燃料をこれ以上増やしてはなりません。瀬戸内海を死の海にさせてはなりません。いのちを守るために、未来に負の遺産を残さないために、私たちは、原発NO！の声を上げ続けます。今日(10月21日)の「伊方原発再稼働を許さない！ えひめ県民集会&デモ」で、採択された集会宣言です。

原発はいりません!! 原発やめても私たちのくらしはだいじょうぶ!! 伊方原発をなくして安心して暮らせる愛媛県に!!

皆さんの疑問にお答えします。

Q1 自然エネルギーは、天候に左右されるため、電気の安定供給という面で問題があるのではないですか?

A1. 自然エネルギーを導入する際には、風力・水力・地熱・太陽光などの発電所をいろいろな場所で同時に稼働させながら、発電量の変動分を補い合うのが現在の主流の考え方です。ドイツやスウェーデンなどでは、すでにさまざまな自然エネルギーの組み合わせで、高水準での安定性を実現しています。

Q2 原子力は安い電力?

A2. 「原発の電気は安い」は大ウソです。用地買収費、漁業補償費、建設費、安全対策費、使用済み核燃料の処理費、廃炉費用などを含めると、とてつもなく原発は高いのです。その上、福島原発の事故処理費用は政府の見通しで21兆円。ひとたび事故が起これば必要な費用は天文学的金額。一企業が負担できる金額ではないため、私たちが税金で負担することになります。

Q3 乾式貯蔵ってなんだろう?

A3. 乾式貯蔵はキャスク（魔法瓶のような形の大型設備）に収納して空気の自然対流を利用して冷やします。湿式貯蔵より安全と言われていますが、50年から100年で建屋や設備は劣化するので、そのたびごとに入れ替えが必要です。



使用済み核燃料は、とりだした後も放射能と熱を出し続けるので、覆いのないプールの中に入れて保存しています。数年間(伊方3号機のモックス燃料の場合は数十年間)燃料プールで冷やしてから、はじめて乾式貯蔵できるのです。

Q4 いま乾式貯蔵の検討を始めたのは?

A4. いま四国電力が「乾式貯蔵」を言い出したのは、3号機の再稼働のためです。使用済み核燃料が満杯になってきています。数年後には持って行き場がなくなり、原発が運転できなくなります。

なによりも、再稼働をやめて、これ以上、使用済み核燃料を増やしてはなりません。



伊方原発をとめる会

790-0003 愛媛県松山市三番町5-2-3ハヤシビル3F
電話 089-948-9990 FAX 089-948-9991
HP <http://www.ikata-tomeru.jp>